

# 医学会会頭挨拶

話題34

第118回沖縄県医師会医学会会頭 石川 清司

2014・12・14

第118回の沖縄県医師会医学会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

このたびは伝統ある県医師会医学会の会頭にご指名をいただき、県医師会会長ならびに医学会会長、そして会員の皆様方に感謝の意を表します。

戦後の混乱期、結核のまん延した感染症の時代から、今や超高齢化社会の到来とともに生活習慣病の時代になりました。並行して、医学の世界も基礎医学、臨床医学、社会医学を含めて、量・質ともにバランスよく時代のニーズに答えていかないといけない時代になったものと思われま

す。私のライフワークとしてきました肺がん診療の現場も、遺伝子レベルでの診断と治療の時代を迎えております。臨床を支える基礎医学分野の発展は、地道にその実績を積み重ねていくことが求められます。陽の当たりにくい分野ですが、やはりこの分野については政策的に支えていくことが医学の発展につながっていくものと思われま

す。経済優先の社会、金銭崇拜のはびこった社会は、人間の生命の売買にまで手を染めております。新聞報道によりますタイ国における産科領域の代理母出産の問題は衝撃的でした。私共は今一度、医療に従事するものとして生命倫理の問題に正面から取り組んでいかないといけないものと考えます。そしてまた、その根底にある「格差社会」の是正についても、医療の側面からも対応を迫られる重要な課題だと考えられます。

鳥インフルエンザの問題、エボラ出血熱の伝搬は、世界レベルでの対応が求められる問題でした。社会医学の発展は、即、地域の医療を守ることに繋がります。交通・通信網の発達

は、地域の医療を広域の社会とのかかわりの中で考えていかないといけないことを如実に示しているものと思われま

す。少子高齢化社会の到来は、総医療費の抑制政策が主眼となっており、医療経済の問題も無視することのできない問題として提起されております。私は、国立病院の院長として国家公務員の身分から、独立行政法人組織への移行という重大な局面を経験しました。国からの繰入金

が一切なしで、地域医療における結核、障害者医療を担いつつ、病院の経営基盤を確立することは厳しいものがありますが、しかし、それが可能だということが証明できたものと思

には、病院間、施設間の役割分担・機能分担が重要だと考えております。大型高額医療機器は目まぐるしく進歩しており、「診断技術の均てん化」、「治療技術の拠点化」は、地域医療の枠組みの中で基本姿勢として堅持すべきものと私は考えております。

人材の確保、全国レベルの医療水準の維持、そして健全な経営基盤の確立には、離島県である沖縄県は他の都道府県にまして医療機関の役割分担・機能分担は模索されなければならない課題だと考えております。

残念ながら医療界は、2年ごとの診療報酬の改定によって誘導され、診療報酬に関する解説書は分厚くなる一方であり、医療における高邁な理念とその目標とするところが見えなくなってきております。

沖縄県医師会医学会は、臨床研修医の登竜門として、また医師の生涯教育の場として重要な役割を担ってきました。基本的な知識の習得の場、基礎医学と臨床医学の連携の場、生命倫理に関する考察の場、医療マネジメント、ひいては医療供給体制のあり方をも議論する場として総合的に成長していくことを願っております。

今回は、生活習慣病、高齢化社会、感染症に焦点をあてて特別講演、ミニレクチャーが企画されております。長寿県沖縄の復活を願い、時宜を得た構成となっております。活発な討論をお願いいたします。

県医師会医学会のますますの発展と会員の皆様方のご健勝を祈念いたしまして挨拶いたします。ありがとうございました。